

ミッション（16年度）

委員数（16年度）：79名（6小委員会）
活動：小委員会定例1回/月、全体会合2回
正副委員長会合1回/月

- (1) 我国の産業競争力向上のための施策についての調査・研究を行い、政府等関連機関に提言すべき政策課題について検討し、適時発信する。
- (2) 企業の知財経営を推進するために有用な調査・研究を行い、実践的な情報、提言として発信する。

活動方針

1. ミッション(1)と(2)に関する調査・研究をバランス良く行い、新たな視点から検討を加え、産業界のオピニオンリーダーとなるような提言をする。
2. また、委員会参加メンバーが、活動を通じてそれぞれの日頃のマネジメント活動に有意義な知識、経験、人脈を得ること。

委員会の活動紹介（中間全体会議の様子）

@宇奈月国際会館セレネ



会議風景

ポスターセッション

懇親会



アウトプット

- ・知財管理誌への論説
- ・政府等への政策提言

委員会活動を通じて得られること

- ・人脈形成、他社・異業種との情報交換
→他の業界のマネージャーや有識者（大学教授）との意見交換
- ・特許庁、経産省、関連団体、海外の政策関係情報

17年度テーマ候補

知財情報発信

事務所連携

職務発明

グローバル
マネジメント

AI活用
知財活動

ICT
知財管理

今年度テーマ紹介：「グローバルな営業秘密管理の研究」

STEP 1 課題

事業のグローバル化の進展に伴い、国内で管理していた営業秘密を意図して海外に出すケースが増えている。しかしながら、海外拠点における営業秘密管理について、実務に即した形で実効的・現実的に対策することは難しく、各社手探りの状況であると思われる。

STEP 2 検討

(1)時系列軸（拠点設立/運用/撤退）、
(2)拠点種別軸(研究開発/生産/販売)、
のマトリクス(右図)に整理し、事例を通じて各象限(右図①～⑨)における知財面の実務的な課題に対する解決策の仮説を立案。

当小委員会にて以下のマトリクスを考案。各象限における知財面の課題を検討し、対策を提言する。

		時系列軸		
		拠点設立 (イニシャル)	拠点運営 (ランニング)	拠点撤退 (クロージング)
拠点種別軸	研究開発	①	④	⑦
	生産	②	⑤	⑧
	販売	③	⑥	⑨



STEP 3 アウトプット

上記検討および事例のヒアリング/アンケートを通じてマトリクスの各象限毎に仮説を検証。時系列および拠点種別に応じて営業秘密をどのように守るべきかを提言。

今年度テーマ紹介：「職務発明制度の見直しにおける留意点」

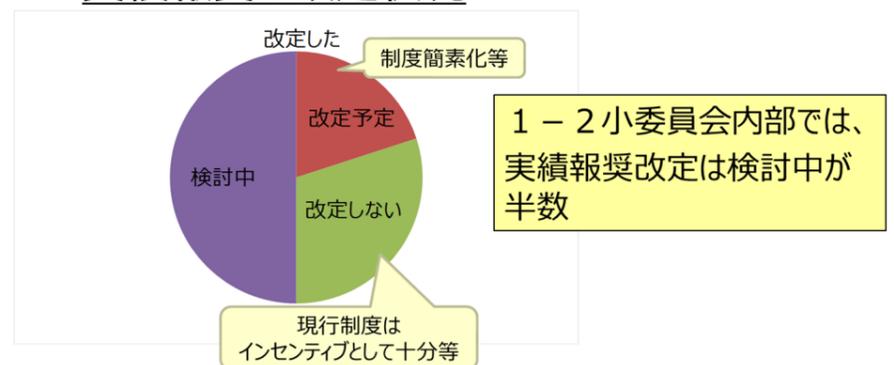
STEP 1 課題

特許法 35 条が改正を受けて、**社内の職務発明制度**をどう見直すべきか悩んでいる企業は多いと思われる。こうした企業の一助となるように、**参考となる情報を収集、分析して、留意すべきポイントについて分かり易くまとめる**。また、グローバル知財マネジメントの視点からの検討も加える。

STEP 2 検討

業種、出願件数、事業における特許の価値（重み）、社内発明人口、知財リソース、グローバル対応などの切り口から、分析・整理する。

実績報奨の改定状況



STEP 3 アウトプット

アンケートおよびヒアリングにより、上記切り口による分析から、企業の状況下に応じた考え方をまとめ、**よりよい社内制度に向けた提言**を目指す。

法人帰属への変更状況



今年度テーマ紹介：「権利活用と直結した知財管理」

STEP 1 課題、背景

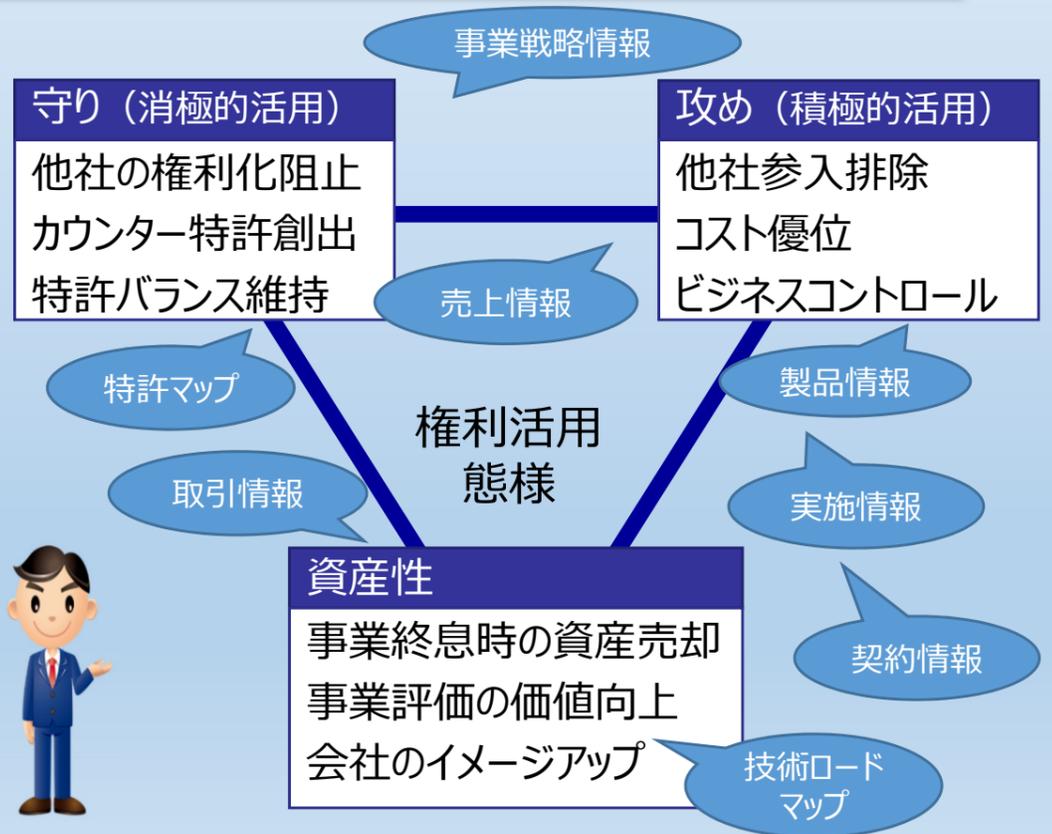
各社において、経営からは、保有権利を活用して事業や経営に資することを求められている。権利活用には、「必要な情報を、必要な人が、必要な時に」取り出せるようになっていることが望ましいが、特に多くの特許を保有する企業では、運用面の困難さのために、実効ある管理になっていない場合があり、活用活性化の妨げになっている。

STEP 2 検討

権利活用の具体的な態様ごとに、必要な情報を特定、その情報整備の現状分析から不満・課題を抽出、あるべき姿を検討。

STEP 3 アウトプット

業種や規模を考慮してあるべき姿を設定し、社内他部門との連携、ICTの利用も考慮の上、費用対効果も鑑みて実現可能な道筋を提案したい。



今年度テーマ紹介：「IoT、BD、AIによる変化が知財制度と知財活動に与える影響」

STEP 1 課題

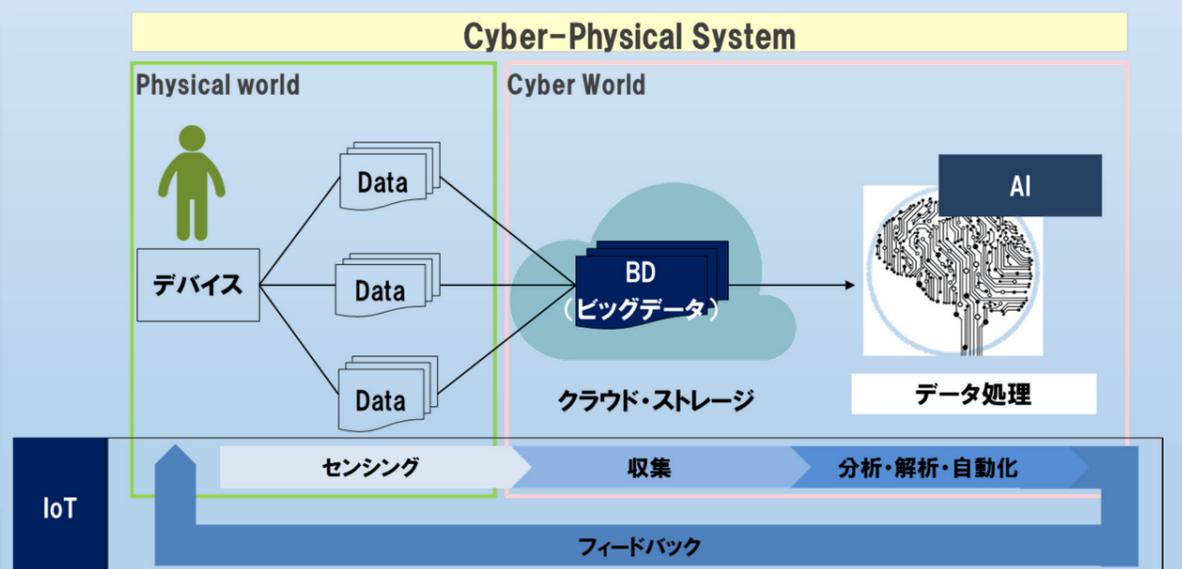
ICT技術の進歩はビジネスのしくみや競争のあり方を今後更に大きく変化させることが予想される。これに伴い、新たに保護対象にすべき無形資産の発生や、既存の知的財産の保護を強化すべき必要性が生じることが考えられる。そこで、表出すると考えられる論点をビジネス視点で、抽出、整理し、考察を加える。

STEP 2 検討

IoT、BD (ビッグデータ)、AI (人工知能) 技術を中心に検討を行う。複数の先進事例を用いたケーススタディを実施し、競争の源泉や保護活用すべき無形資産を整理する。

STEP 3 アウトプット

これらの検討を基に、IoT、BD、AIによる変化が既存の知財制度と知財部門の活動に与える影響を考察する。



IoT、BD、AIが相互作用によって大きな価値を生み出す

価値変化が既存知財制度や知財活動に影響を与える?!

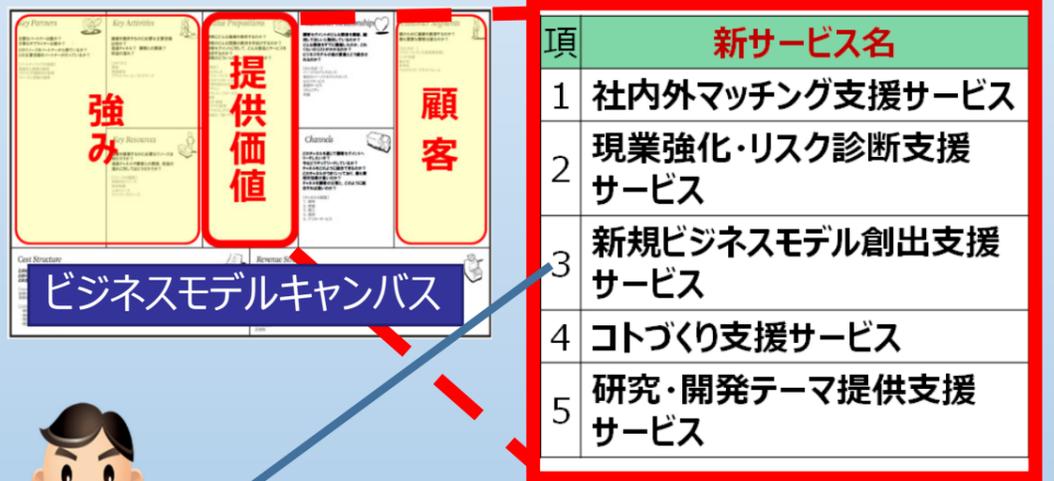
今年度テーマ紹介：「これからの知財人材のあり方と育成に関する研究」

STEP 1 課題、背景

ICTやAI技術の進歩により、「特許明細書はコンピュータが書く」といった時代は来ないと言い切れるのか？市場・製品の短命化を超えるイノベーションが不可欠な時代に、知財人材はこれまで通り、受け身の権利化中心スタンスでいいのか？あらゆる場面でデジタル化が進展する背景を踏まえて、これからの知財人材のあり方と、そのような知財人材をいかに育成していくかについて研究する。

STEP 2 検討

知財人材をビジネスモデルキャンバスに嵌めて検証⇒「強み」は何!?「顧客」は誰!?どんな「価値＝新サービス提供」ができるか!?を検討する!!



STEP 3 アウトプット

これからの知財人材が提供すべき新サービスと、そのための人材育成について提言する!!



育成例

強みであるファシリテーション力＋ビジネスモデル創出・検証手法（BMC・ピクト図解・ワールドカフェ・等）⇒新規ビジネスモデル創出支援ができる人材へ!!

今年度テーマ紹介：「グローバル拠点を踏まえた知財予算のあり方の研究」

STEP 1 課題/視点

グローバル視点も踏まえて、組織形態・事業形態に応じた最良の知財予算のあり方（知財戦略／知財管理形態）はあるのだろうか？

STEP 2 検討

マネジメント委員会企業内でのアンケートにより、実態を把握するとともに特徴的な会社を探り出し、ヒアリングをすることで、成功要因を引き出す

STEP 3 アウトプット

業種、規模及び組織/事業形態に応じた、自社、国内外グループ会社における予算・権利の実態とありたい姿について提言したい

